生等によって作成され、研修会講師には、開催地域の第一種指定医療機関の感染管理認定看護師・FETP 研修生等が加わった。

本研修会の趣旨である「エボラ出血熱を想定した基本事項の確認および個人防護具（PPE; Personal Protective Equipment）の知識習得と実践」に対して、本研修会がどの程度、どのように寄与できたかを知るためにアンケート調査を実施した。

B.研究方法

会場それぞれにおいて、全参加者を対象として、講習会開始前および終了後にアンケート（資料 1）を実施した。

（倫理面への配慮）アンケートは無記名とし、実施者が現地にて回収した。解析においても個人が特定されない方法で実施した。

C.研究結果

1.参加者

2014 年 11 月 26 日～12 月 22 日の期間に参加した自治体職員は 358 名（参加者 328 人、聴講 29 人、オブザーバー1 人）、うちアンケートを回収できたのは 312 人（87.2%）だった（表 1）。アンケートに回答した参加者の背景を表 1 に示す。女性が 209 人（67.0%）、年齢は 44.2 ± 9.5（平均値±標準偏差）だった。最も多かった職種は保健師（161 人）で、次いで、医師（33 人）、獣医師（26 人）、臨床検査技師（20 人）、薬剤師（19 人）、臨床放射線技師（11 人）、看護師（3 人）の順であった。参加者の 88.5%が現在、あるいは過去に感染症対策の担当を経験していた。また、247 人（79.2%）が何らかの感染症対策の講習受講経験があると回答したが、エボラ関連の講習会に今回の講習会以前に参加したことがあると回答したのは 89 人（28.5%）だった。講習会の開催主体は国立感染症研究所などの厚生労働省関連機関、自治体、大学、と多岐にわたっていた。

2. 研修会の運営について

事前準備については、270 人（86.5%）がよい（大変よい・概ねよい）と回答した。問題有りと回答した参加者のコメントとして、資料に関するものが多かった（表 2）。資料は前日までにメールで配信、各自印刷して持参とし、会場では印刷物は配布せず、スライドデータや参考資料を入れた CD を配布した。これに対して、資料のメール配信が遅い等のコメントが 17 件あった（表 3）。CD の配布は概ね受け入れられていたが、印刷物を希望するコメントもあった。

当日の進行については 294 人（94.2%）がよいと回答していた。時間配分については 285 人（91.3%）がよいと回答していた。その一方、複数の参加者が、PPE 着脱や質問の時間がもう少しほしかった、とコメントした。

会場設営については、開催地により回答に差があった。狭い（18 人）、寒い（8 人）とのコメントがあった。

いずれの会場も 13 時に開始し、終了は 16 時～16 時半であった。90.7%が時間設定についてよいと回答したが、もう少し開始を遅く設定してほしいというコメントが 10 件あった。

内容についてのコメントが多くあった

（表 3、表 4）。そのほとんどが PPE に関するものであった。具体的には、感染管理認定看護師に直接指導を受けたことがよかった、疾患や PPE について知ることができた、というコメント、積極的疫学調査についての説明が不十分だった、PPE の選択がわかりにくい、などの意見があった。

3.参加者の意識調査

講習会参加の前後での参加者の意識調査の結果を表 5, 6 に示す。ほぼ全員が講習会の目的を理解して参加しており、この講習会を実践に役立てたいと考え参加していた。283 人（90.7%）がエボラ出血熱の基礎的知識を事前に有していると回答したが、その疫学調査については、理解していると回答したのは 236 人（75.6%）、一類感染症対応指定医療機関の役割を理解していたのは 255 人（81.7%）であった。PPE については、284 人（91.0%）がその基礎について理解していると回答したが、実際の着脱について確実にできると回答したのは 6 割に満たなかった。さらに、感染対策の基本的内容を人に指導できると回答したのは 176 人（56.4%）だった。

講習会の前後での回答を比較したところ、ほぼ全項目においてより積極的な傾向が見られた（図 1）。特に PPE に関連する設問では、その傾向が顕著に見られた。

D.考察

今回のアンケートから、参加者の多くが、保健師であったこと、また、これまでにも何らかの感染症対策に関連する講習会への参加経験があったことが示された。

今回の講習会は、きわめて短い準備期間の中で、国立感染症研究所および国立国際医療研究センターの担当者が会場、日程、開催対象となったそれぞれの地域の自治体との連絡および感染管理認定看護師の協力要請を行った。アンケート調査では、会場、（寒い、狭いなど）、配布資料、開始時間の設定についてコメントが寄せられた（表 3）が、そのいくつかは調整段階で対応可能であったと思われる。資料配付については、事前にメールで配信し各人で必要に応じてプリントして持参、当日の紙ベースでの配布はせず CD 配布とした。メール配信が直前になったことから、当日の印刷が間に合わなかった参加者も散見された。これらのコメントは、今後の自治体対象の講習開会開催においてきわめて貴重な資料となると考えられる。

参加者の講習会参加前の回答から、参加者は講習会の目的を理解して参加していたこと、また、積極的疫学調査、PPE の着脱に不安があったことがうかがえた。積極的疫学調査については消化不十分な感が否めなかったが、PPE については実習に十分な時間をとったこと、日頃から感染症対応にあたっている教育感染管理認定看護師が直接指導することができたことが参加者の理解度、満足度の向上に寄与したものと考える。講習会前後の回答から、概ね参加者のニーズに合った内容を提供できたのでは、と推察された。

E.結論

今回の講習会参加者アンケートから今後の課題がいくつか浮かび上がった。資

料の共有の手段、感染症対策の指導者の確保、講習会に用いる資材の確保である。今後もエボラ出血熱対応だけでなく様々な感染症に対する自治体対応への協力の場面が出てくると思われる。今回の講習会の経験を元に、自治体対応の向上と求められる情報提供を検討する必要がある。

F.研究発表

（該当せず）

G. 知的財産権の出願・登録状況

（該当せず）

H.謝辞

今回の講習会が全地域で無事終了することができたのは、各自治体の担当者および感染管理認定看護師の皆様の惜しみないご尽力のおかげである。改めて、ここに陳謝する。

本アンケート調査の実施・解析に際しては、八幡裕一郎氏、宮間 浩史氏、河野有希氏（国立感染症研究所）にご協力をいただいた。

資料 1.

アンケート協力のお願い

この講習会は、エボラ出血熱を想定した基本事項の確認および個人防護具（PPE）の知識習得と実践を目的としています。
本研修をよりよいものにしていくため、研修内容に対する理解やご意見をお伺いし、今後の活動につなげていきたいと考えております。
趣旨をご理解いただき、アンケートにご回答いただけますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。
記入によって得られた個人情報は目的外に使用することは一切ございませんのでご理解・ご協力のほどお願い致します。

実施者：国立感染症研究所感染症疫学センター
国立国際医療研究センター国際感染症センター

★あなた自身について伺います

記入日：2014 年　　月　　日　会場：（東京・福岡・広島・大阪・名古屋・仙台・札幌）	
① 年齢	歳
② 性別	（男性）・（女性）
③ 免許	医師・看護師・保健師・助産師・他（　　）
④ 役職名	
⑤ 感染症対策を担当したことがある	（はい）・（いいえ）
⑥ 感染症対策の講習を受講したことがある	（はい）・（いいえ）
⑦ エボラ関連の講習会を受講したことがある	（はい）→（具体的に　　） （いいえ）

★運営について、お気づきのことをお聞かせください。

運営	評価				コメント
	大変良い	概ね良い	少し問題	問題有り	
事前準備（連絡・資料）					
当日の進行					
会場（スペース、マイク、照明など）					
時間配分					
開催時間・終了時間					

コメント：（内容全般について、ご意見、ご感想を記載してください）

《《裏面に続きます》》

★以下の項目について、**ご自身の考えに近い回答を選んで○を入れてください。**

＊個人の評価を目的とした質問ではありませんので、直感的にご回答ください＊

講習会参加前のあなたの考えを教えてください	よく当てはまる	大体当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
① この講習会の目的を理解して参加した				
② エボラ出血熱感の基礎について理解していた				
③ エボラ出血熱の積極的疫学調査について理解していた				
④ 一類感染症対応医療機関の役割について理解していた				
⑤ 個人防護具（PPE）の基礎について理解していた				
⑥ PPE の装着を確実に実施できていた				
⑦ PPE の安全な脱ぎ方を確実に実施できていた				
⑧ 感染対策の基本的な内容について人に指導ができていた				
⑨ この講習会を実践に役立てたいと考えていた				

講習会終了後のあなたの考えを教えてください	よく当てはまる	大体当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
① この講習会の目的は達成された				
② エボラ出血熱感の基礎について理解している				
③ エボラ出血熱の積極的疫学調査について理解している				
④ 一類感染症対応医療機関の役割について理解している				
⑤ 個人防護具（PPE）の基礎について理解している				
⑥ PPE の装着を確実に実施できる				
⑦ PPE の安全な脱ぎ方を確実に実施できる				
⑧ 感染対策の基本的な内容について人に指導ができる				
⑨ この講習会を実践に役立てたい				

アンケートは以上です。ご協力に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

表 1.　参加者の背景

アンケート実施日：2014 年 11 月 26 日～12 月 22 日 開催会場：北海道（札幌）・東北（仙台）・関東（東京）・東京（23 区）（東京）・東海北陸（名古屋）・近畿（大阪）・中国四国（広島）・九州沖縄（福岡） 参加者：358 人（参加 328 人、聴講 29 人、オブザーバー1 人） アンケート回答：アンケート回答：312 人（回収率 87.2%）	
参加者の背景	
①年齢	44.17 ± 9.46 歳
②性別	男性：98、女性：209
③免許	1.医師・歯科医師・獣医師：59、2.看・保: 164、3.薬剤師・検査技師・放射線技師: 50、4.事務系: 15、5.その他: 3　0、不明: 21
④感染症対策を担当したことがある	はい：276、いいえ：28、不明：8
⑤感染症対策の講習を受講したことがある	はい：247、いいえ：58、不明：7
⑥エボラ関連の講習会を受講したことがある	はい：89、いいえ：208、不明：15

表 2.　参加者の講習会運営に対する考え（回答者 312 人）

	大変よい	概ねよい	少し問題	問題あり	不明
①事前準備（連絡・資料）	71	199	23	5	14
②当日の進行	106	188	5	0	13
③会場（スペース、マイク、照明など）	89	149	49	8	17
④時間配分	90	195	10	0	17
⑤開催時間・終了時間	101	182	12	0	17

表 3.講習会運営に関する自由記載(講習会の具体的な内容に関連するものは表 6 にまとめた)

区分	内容
事前準備	● 資料データの送付は前日より前に頂きたい（11） ● 資料準備を各自してくることについて早めにアナウンスして頂けると良かった（2） ● 資料が CDR のみで手元にないのは困る（2） ● 資料がメールされなかった（2） ● CDR 配付大変ありがたい ● 研修受付メールに資料を後日送りますとありましたが郵送なのかメール（データ）なのかいつ頃なのか記載があると助かる ● もう少し早く知らせて欲しい
当日進行 時間配分	● 時間配分・開催時間・終了時間は丁度良い ● もう少し質問の時間をとって欲しい ● 講義がもう少し長くあった方が良かった ● 時間配分は項目毎早い（内容の充実をしてもらいたい） ● 着脱演習にもう少し時間が欲しかった（4） ● 全体的に時間が少ない（3）
開催時間	● 午前の事業・移動も含め 13：30 以降が良い（5） ● 13：00 開始は早すぎる（5） ● 時間がもう少しあれば良かった（17：00 まで位）（2）
PPE 着脱	● 見えづらかった。モデルを囲んだ方が良かった ● 少なくともデモはちゃんとしたものが良いのでは？
会場設営	● 部屋は寒い（14） ● PPE 着脱には狭い（18） ● マイクの調子が悪かった（4）
内容	● 事前資料と同じ説明だったのでもっと説明時間は少なくてもよい ● 医療機関と合同の患者移送、検体搬送の訓練を計画中のところでしたので、大変勉強になりました ● 対応については基本的なものを身に付けた上で状況に応じた対応がとれるよう自分自身や又、所内の担当者のスキルアップに取り組んでいきたいと思います ● 他の自治体の方法や状況も知る機会となり大変参考となりました ● EVD の発病リスク、初発時の感染力等が再評価できました ● 講義もわかりやすく、質問等にも丁寧に回答して下さりありがとうございました

	● 教えて欲しかった内容をしっかりと聞く事ができたので保健所に戻り伝達したいと思います ● 一類指定医療機関の方と質疑できて良かった ● 適切なアドバイスに感謝する ● 実務担当者など幅広く参集して欲しかった ● PPE について共通性がなくどんなものが標準かわからない ● 防護具の程度について参考になった
資料	● 紙と CDR 両方欲しい、CDR は自治体一つで良い（3） ● CDR を頂けて良かった ● 資料はやはり紙で頂けると助かる（2） ● CDR ですとウイルスチェックなど役所の手続きが煩雑ですし、外部メディアからのデータ取り込みを役所として推奨していないため ● 事前資料の持参は必須と明記して欲しい ● 当日資料で参加者名簿があると良い ● 一部 PDF 資料で印刷しにくいものがあった（2）
その他	● 参考にさせて頂きます ● もっと色々聞きたかった ● 大変有意義な研修会だった（3） ● 参加人数をもう少し多くして、多くの担当者に聞いてもらった方が良かったのではないかと思います（2） ● 場所がわかりにくかった（2） ● もう少し早い時期の実施が望ましかったと思う ● 北海道のこの時期は・・・

表 4.　講習会全般に関する自由記載

積極的疫学調査	● エボラ出血熱等一類感染症については疑似症患者は患者とみなして法を適用することから、法 15 条に基づく積極的疫学調査のスタート（起点）は疑似症患者と医師により診断・届出があった時点からになると思っていたが説明では患者（確定例）の診断からという事だった。それで法的に良いのか今でも少し疑問に残る ● 疫学調査についても詳しく聞きたかった（3） ● 各種通知についても説明して欲しかった ● 積極的疫学調査の具体的な説明が無かったように思う
PPE 着脱実習	● 防護服の着脱手順がマニュアルによって若干違うと思った。(インナー手袋など) ● 実技デモンストレーションはとても役に立ちました。自治体と HP で異なるのも理解しました ● 今回の研修で初めて PPE の着脱を体験した。1 回体験しただけでは身につかないので自部署での練習が必要だと思った ● 実際に着てみると病院まで搬送し、脱いだ後の行動等色々と想像することができました ● 実際、着脱演習、デモンストレーションを通して実際の場面を想像して訓練することができて良かった ● 今後、それぞれの HC において様々な状況に応じた対応の議論をすることが重要と考える、そのようなタイプの研修も今後必要、保健所が細かな事まで感染研や厚労省の判断を仰ぐ必要がない様に職員のレベルアップをすべきなのでしょう ● 着脱について、押さえておく点を 1 つのプロトコルではなく理解でき良かったです。ありがとうございました ● 実演が出来て勉強になった（2） ● フル PPE で長時間活動することを想定した PPE 使用ポイントをまとめて下さると助かると思います ● 実技指導が病院職員向けの印象だった。保健所職員の搬送などの実際の場面を想定して話していただけるとなお良かったと思う ● 自分のところで考えていた方法と異なったため、自前の方法を決定したいと思った ● PPE 脱衣について：２人組で交互に脱衣するやり方を普段やっていたのですが１人での脱衣方法が学べて良かったです

	● 職場では２人ペアで脱ぐ方法を採用しているので全く同じ方法をとる訳ではないが、アドバイス等は大変参考になりました ● 実際の作業工程の詳細や PPE の着脱フローなどの詳細な整備の必要性が感じました ● 準備している物品について、コンサルテーションをもっとして欲しかった。本当にこれで良いのか不安になる ● PPE の着脱については道の方法と若干違っていたため少し混乱があった。色々やり方はあるのだろうとは思いましたが ● PPE 着脱はキットの装備によって違うので、そこそこの決めをつくるしかないということがよく分かった。NCGM や感染研のゴーグル＆フェイスシールドや足カバーをしてから長靴をはくのは一般的になってないのではないかと思った
PPE 着脱実習担当者	● PPE のコンサルありがとうございました。とても安心しました ● 基本を繰り返し教えていただいたので理解しやすかった ● PPE の着脱は講師にチェック確認して欲しかった ● PPE 等 CNIC の方から指導やコメントをいただけたのが普段にない研修だったので参考になりました ● 所属でも PPE の講習会を行ったが今回新たに参考になるポイントを教えていただき参考になった。病院の感染症部門の先生や NS の方に直接見ていただけてよかった ● 脱ぐとき、CNIC 等に汚染していないか、脱ぎ方が OK か確認して頂く機会があると良いです ● PPE 用品について具体的なアドバイスがもらえたので良かった ● 実際に着てみて質問できる先生方がそばにおいでで、すぐ答えて下さったので心強く勉強になりました ● 一種機関の CNIC より指導が受けられ、よくわからなかった所を質問することができとても有意義でした（3） ● 有難うございました。現場の講師より直接指導していただきとても良かったです ● 病院の感染症部門の先生や看護師の方に直接見ていただけてよかった ● PPE 着脱について細かい点までご指導くださりありがとうございました。助かると思います
全般	● お忙しい中、研修の開催ありがとうございました（8） ● 次亜塩素酸入りシートの作り方などもあると助かる

	● 大変分かりやすく教えて頂きコンパクトで良かった ● 正しく恐れることが改めて必要と強く感じた。きちんと知らなければと思います ● この研修で学んだ事を保健所に持ち帰り他職員に伝え早速役立てたいと思います ● 大変分かりやすく、問題点も解決されました ● 会場からの質問により一層理解できた。講師への個々の自治体の質問一つ一つに丁寧に応えて下さり良かった ● タイムリーな研修ありがとうございました。伝達研修がんばります ● 自治体から出た質疑応答についてまとめて後日資料をいただけたらうれしいです ● 自治体に持ち帰り、再度検討したいと思います ● わかりやすく的確な説明と資料、明解な質疑に対する解答など大変参考になりました（3） ● 新型インフル、鳥インフル等にも対応することができるので有意義であった ● 現場で実際にひっかかるような細やかな点まで分かりやすくお示しいただき大変参考になりました。ありがとうございました

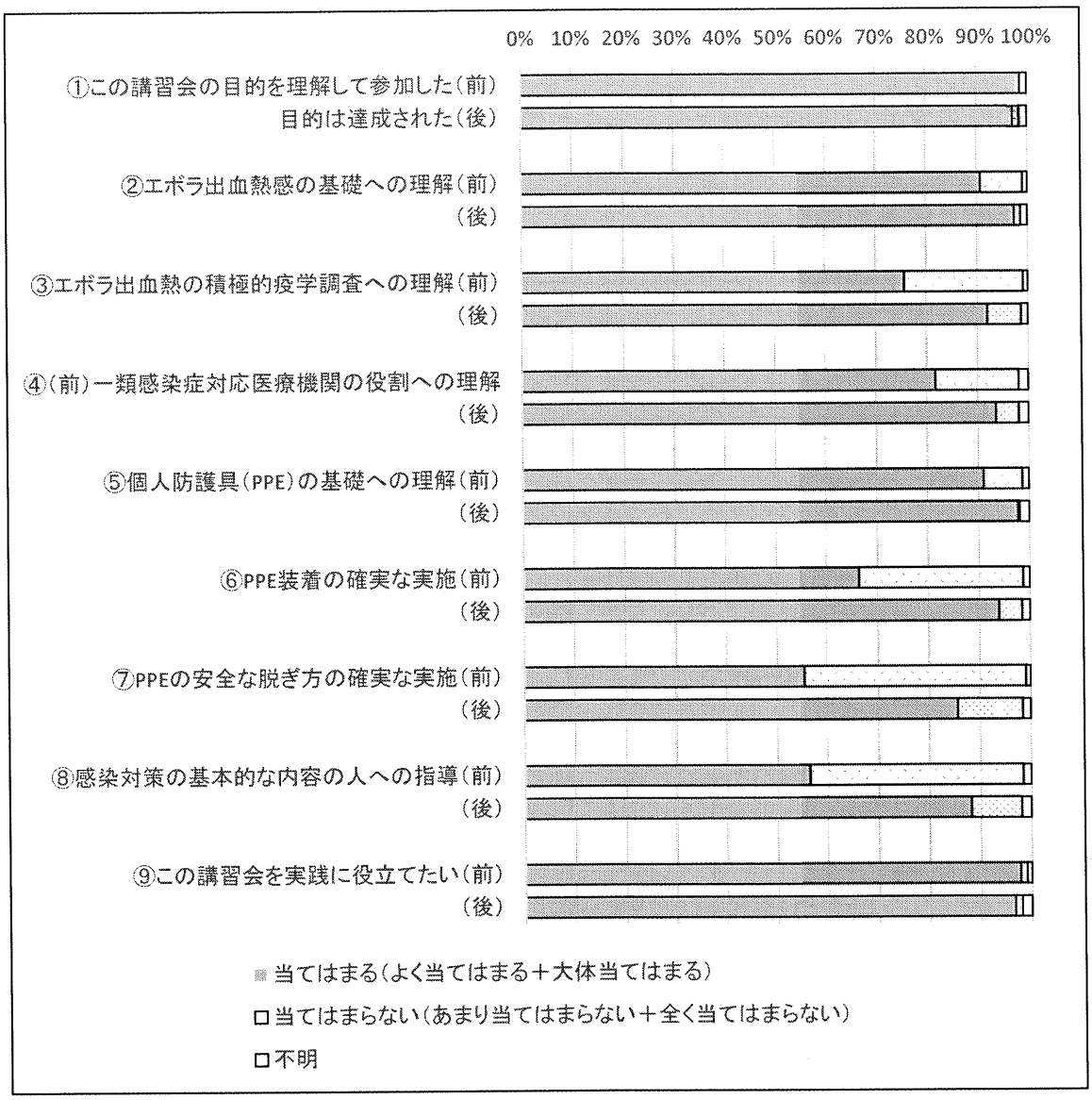
表 5.　講習会参加前の参加者の考え（回答者 312 人）

	よく当てはまる	大体当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	不明
①この講習会の目的を理解して参加した	159	149	0	0	4
②エボラ出血熱感の基礎について理解していた	64	219	24	2	3
③エボラ出血熱の積極的疫学調査について理解していた	34	202	65	8	3
④一類感染症対応医療機関の役割について理解していた	48	207	43	8	6
⑤個人防護具（PPE）の基礎について理解していた	46	238	18	6	4
⑥PPE の装着を確実に実施できていた	20	187	89	12	4
⑦PPE の安全な脱ぎ方を確実に実施できていた	15	158	123	13	3
⑧感染対策の基本的な内容について人に指導ができていた	10	166	112	19	5
⑨この講習会を実践に役立てたいと考えていた	183	122	4	0	3

表 6.　講習会終了後の参加者の考え（回答者 312 人）

	よく当てはまる	大体当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	不明
①この講習会の目的は達成された	166	137	4	0	5
②エボラ出血熱感の基礎について理解している	139	165	4	0	4
③エボラ出血熱の積極的疫学調査について理解している	87	200	20	1	4
④一類感染症対応医療機関の役割について理解している	117	175	13	1	6
⑤個人防護具（PPE）の基礎について理解している	148	157	1	0	6
⑥PPE の装着を確実に実施できる	98	195	14	0	5
⑦PPE の安全な脱ぎ方を確実に実施できる	68	199	39	1	5
⑧感染対策の基本的な内容について人に指導ができる	69	206	29	2	6
⑨この講習会を実践に役立てたい	226	76	4	0	6

図 1.　講習会参加前後での考えの変化（回答者 312 人）



エボラ出血熱対策における感染管理認定看護師との連携と課題

堀成美[1)]、吉田眞紀子[2)]、山岸拓也[3)]、松井珠乃[3)]
1）国立国際医療研究センター国際感染症対策室
2）亀田総合病院地域感染症疫学・予防センター
3）国立感染症研究所感染症疫学センター

研究要旨

2014 年 3 月からの西アフリカでのエボラ出血熱（エボラウイルス病）の流行にともない、非流行国においても、輸入症例に対する備えが強化された。日本においては、8 月、10 月、11 月の厚生労働省からの通知をもとに、自治体や医療機関における 2 次感染予防のための訓練や設備・備品の検討が進められた。国内では一類感染症への対応経験や情報が乏しく、現場の具体的な備えについては不足が否めないなか、すでにあるリソースとして医療機関等に配置されている感染管理認定看護師の活用とその課題について検討を行った。

2014 年 11 月に全国 8 か所で実施した自治体の積極的疫学調査のための研修会では、研修会の内容や運営についての助言を求め、開催地の第一種感染症指定医療機関の感染管理認定看護師に、個人防護具の着脱訓練および第一種感染症指定医療機関の役割について講師を依頼した。

研修開催にあたってのアセスメント、計画、実施、評価において、感染管理認定看護師は、出血熱ウイルスの 2 次感染予防のための物品・手法・教育についての知識や技術を有し、また職場からも院外教育活動への理解は得られていた。

感染症対策を展開する際に、地域の専門リソースとして感染管理認定看護師が認知されること、感染管理認定看護師の養成課程や継続教育において新興感染症とその対策について学べる機会を増やすことが今後の課題と考えられた。

A. 目的と背景

［目的］

エボラ出血熱の疑似症例や感染リスクが発生した症例への早期対応の際、初期医療や積極的疫学調査等に従事する専門職の 2 次感染予防の準備が重要である。稀な輸入感染症についての知見や経験が乏しいなかで、2 次感染予防訓練を行うために、日常から感染予防の教育や管理を行う感染管理認定看護師を活用し、その際の課題を明確にする。

［背景］

1）制度

一般社団法人 日本看護協会は、看護師の職能団体であり、「認定看護分野」として、高度化及び専門分化する保健、医療及び福祉の現場において、熟練した看護技術及び知識を必

要とする看護分野として制度委員会が認めた専門分野を定めている。

看護協会が特定している「認定看護師」の専門分野は、2010年2月時点で21あり、「感染管理認定看護師」(Infection Control Nurse, 以下ICN)は2001年8月に創設された。

他の分野と同様に、条件を満たした研修課程で訓練を受けた後に認定試験を受けて認定される。6か月以上連続(集中)した昼間のコースで、授業時間総数は615～677時間(共通科目:105 時間以上、専門基礎科目と専門科目:時間指定なし、学内演習および臨地実習:200時間以上を含む)の訓練を修了している。再認定は5年に1度行われ、2015年2月現在は2053人が感染管理認定看護師として登録されている。

参照 日本看護協会HP http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn

英語ではICN(Infection Control Nurse)と表記されるが、以前はその名称を使用していた米国では現在"Infection Preventionist"という名称がつかわれている。

2)他の一般看護師との相違点

①個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。(実践)、②看護実践を通して看護職に対し指導を行う。(指導)、③看護職に対しコンサルテーションを行う(相談)。具体的には、各病院の専門性や扱う疾患特性によって異なる感染リスクの評価、予防策を考え、病院職員への技術指導や種々のマニュアル作成の中心となっている。医療法に定められている年2回の全職員対象の研修会の企画も行う。

3)医療機関における位置づけ

通常は、医療安全対策室と連携し、感染管理対策室といった名称の部門に配置される。

現在、感染管理の加算をとるために専従者として置かれていることが多く、病院の規模によっては複数の認定看護師が専従となっているところもある。病棟や外来の看護からは独立し、看護部内においては「師長」あるいは「副師長」相当の管理ポジションが多い。

4)エボラ出血熱の流行への対応におけるICNの役割

2014年10月、スペインやアメリカの看護師の2次感染例のニュースなどから、「国内における診療体制」「院内感染予防」についての認知が高まった。

1976年に同定されたウイルスの予防策は確立しており、必要な設備や物品があれば感染予防は確実に行える。しかし、米国テキサスの病院での2次感染例にあるように、仮にマニュアルがあったとしても、それが繰り返し変更されることによる混乱、また訓練が不十分であったり、職場から情報や教育の機会を与えられていないことからくる職員の不安や不信が聞かれた。そして、不安がヒューマンエラーにつながりうることも多くの関係者によって指摘されるところとなった。その後米国は、10 月に CDC が感染防護具(Personal Protective Equipment, 以下 PPE)のプロトコールを改訂し、各地では看護職を中心に着脱の訓練が行われている。

日本国内では、上記の事案に関連して10月13日に日本病院会が会員施設に対して感染予防の注意喚起を行い、10月21日には東京都看護協会が会員施設に注意喚起を行った。

第一種感染症指定医療機関や渡航者の受診の多い医療機関では、ICN が中心となり、「感染対策の基本」「個人防御具の使い方」等について、外来や病棟で必要な準備、ミスを予防するための教育活動が展開された。

B. ICN の参画のプロセス

上記のような背景をふまえ、疑似症例の移送、積極的疫学調査等を担当する行政や保健所の職員を対象とした研修会の開催にあたり、以下のフェーズで感染管理認定看護師の協力を依頼した。

1.アセスメント:医療とはことなる場面で必要な感染防護具の選択、屋外や患者宅での防護具の使用や着脱、必要な準備、説明の仕方等についてヒアリングを行った

2.計画:各ブロックでの開催日時・場所を選定ののち、第一種感染症指定医療機関の感染管理認定看護師に講師としての協力を依頼した

3.実施:研修会では、「第一種感染症指定医療機関の役割」についての講義、「個人防護具」の講義、個人防護具の着脱の演習における助言を依頼した

4.評価:会場での質疑への対応、事後の教材作成についての助言を依頼した

C.検討結果

1. アセスメントにおける ICN 参画の効果

第一種感染症指定医療機関の ICN は研修企画の時点で既に院内や地域での PPE 研修を行っており、そこで生じている課題をすでに把握していた。具体的には、PPE の着脱に集中するあまり、標準予防策等の基本的な理解が不足したままテクニカルなことに限局しやすいこと、物品やサイズの選択を含めた準備、使用後の廃棄物の処理などの情報が抜けやすいこと、マニュアルから逸脱した場合の復帰法についての情報不足等があげられた。

2. ICN 参画のための計画と調整

各地域の第一種感染症指定医療機関の ICN には、国立国際医療研究センターが主催をしたエボラ関連の研修会等に参加をしていた医療機関のリストの中から協力依頼を行った。また、国際線のフライトの多さ、人口の多さも考慮をした。ICN にはメールおよび電話で打診を行い、職場での調整や上司の許諾の取得を行ってもらった。調整が困難であった施設については、同じ日に院内での研修会等がすでに決まっていること等他のスケジュールが入ってい

る等の条件があった。研修会開催当時は、患者受け入れの態勢整備中であったが、第一種感染症指定医療機関においては、複数のICNが配置されていることもあり、研修会への講師派遣が可能となっていた。

3. 実施

研修会までの間には、メーリングリストで目的や手法のすり合わせ、それ以前に開催した研修会での課題等をもとに改善を行った。ICN は講義や PPE 訓練のデモンストレーション、助言を依頼したが、施設により準備している PPE や手順・マニュアルが異なることから、積極的疫学調査の枠組みやそこで準備したPPE着脱の手順や参考資料について事前に理解しもらう時間を開催前に確保をした。講義については、各会場で共通して使用可能なパワーポイントファイルを作成し、各スライドでの説明事項についても理解しやすいように工夫を行った。研修参加者が持参した多様な PPE についても、目的や特徴を理解し、適切な助言を行えていた。

4. 事後の評価とフィードバック

研修会の質疑時間の際には、研修会参加者からの疑問に対して、ICN は解説やフィードバックを行った。また、Q&A 集作成の際には、意見の加筆修正作業に加をした。

D.考察

感染症対策において公衆衛生部門、医療、教育等の「連携」や「コミュニケーション」の重要性が指摘されるが、各種マニュアルにおいてもそれは具体的に何をすることなのかは明確でない。今回、感染症対策の業務に従事する人の2次感染予防の視点でICNと公衆衛生部門が意見や問題点をすりあわせる機会をもてたこと、ゲスト講師としてではなく企画の段階から参画できたこと、今後も相談しあえる顔の見せる関係づくりの場となったことは、今後の他の感染症対策の充実の視点からも有意義であったと思われる。

自治体を軸とした感染症対策において、行政や保健所と医療機関の連絡の窓口は感染症担当の医師であることが多いが、患者や家族への関わりや職員の安全について専門的な知識と経験を有する ICN について行政関係者の認知や理解が深められたことは看護師にとっても良い機会となった。

E.結論

新興感染症のように、情報や経験の乏しい感染症の危機管理には、地域のリソースが協力し合って取り組むことが求められ、その基本となるのが平常時からのお互いの役割や機能の理解であると思われる。今後、行政や公衆衛生部門に対しては、地域の専門リソースとしてどのようにICNを活用すればよいかの提案を行うこと、ICNについてはその養成課程や継続教育において新興感染症等に対応するコンピテンシーを獲得するための訓練の提案を行うこ

とが課題と考えられた。

F.研究発表
（該当せず）

G. 知的財産権の出願・登録状況
（該当せず）

H.謝辞